

# 外国にルーツを持つ子どもたちを支援 ま り 飯田 真理 さん

菊川市教育委員会日本語指導講師

菊川市の小中学校に通う外国籍の子どもたちに対し、日本語や数学などの学習支援を25年にわたり続けてきた飯田さんが昨年10月、中部7県で優れた業績をあげた教育者をたたえる「第56回中日教育賞(主催:中日新聞)」を菊川市で初めて受賞しました。飯田さんの長年にわたる活動に込めた想いを紹介します。



◀ 菊川東中学校「日本語教室」の様子



ブラジルでの経験を力に

外国籍児童・生徒と向き合う

現在、市内3校を巡回し、外国籍の児童・生徒に対して日本語や各教科の学習支援を行っている飯田さん。

活動の原点は、「大学卒業後「海外で暮らし、異なる価値観に触れたい」との思いから参加した、日系社会青年ボランティアでした。派遣先はブラジルで、戦前・戦後に移民として渡った日本人が「ブラジルで生まれた子どもたちと日本語で話したい」という願いで設立した日本語学校。祖父母の母国・日本に興味を持ち、日本語習得に意欲のある子どもたちが多く通っていましたが、経験も浅く、教材も十分に揃わない中で、思いに応えきれなかったと当時を振り返ります。

その後、外国人住民が多く、外国にルーツのある子どもたちの教育を進める地域として国から指定を受けていた旧小笠町から外国籍児童・生徒の支援要請を受けた飯田さん。ブラジルでの後悔と、現地で受けた温かな支えを胸に「今度こそ力になりたい」と活動を始めました。活動の傍ら、終業後には、専門学校に通い日本語教育能力検定にも合格。

現在はブラジル派遣当時  
は手に入らなかった教材  
を活用しながら、市内に  
暮らす外国籍の子どもた  
ちの支援を続けています。



▲長年愛用する教材

『深い話』ができるように

日本語学習に込めた思い

各学校には外国籍の児童・生徒が通常学級の授業と並行して、日本語学習などをする時間が設けられています。飯田さんが受け持つ学校では、日本語の習熟度や学年、教科が異なる子どもたちが、多い時には7人ほど同じ時間帯に集まります。飯田さんは、「この教室で自信をつけ、自分で学ぶ力を身につけてほしいです。以前『日常会話には困らないが、深い話ができない』と話す外国籍の人がいたと聞きました。「深い話」という言葉が印象に残り、自由に話し、生活を豊かにするために、日本語が必要だと実感しました」と、日本語を学ぶ意義を語りました。

長年にわたる活動が評価されたことに對し「受賞を機に日本語教育の大切さが多くの人に伝わればうれしいです。現在は外国籍の人でも日本で進学をする人が多いです。日本語を話す人や、日本に興味を持つ人が増え、互いの理解を深めることで、課題の解決にもつながるのではないのでしょうか。そうした積み重ねが、社会をより良くしていくことにつながると信じています」と語る飯田さん。

誰もが安心して暮らすことのできる共生社会の実現に向けた活動はこれからも続きます。



◀ 中日教育賞の表彰状を手にする飯田さん